

予算審査特別委員会（農林課オロチ追加分）

日 時 平成28年3月9日（水）
午後2時35分～午後3時20分
場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：なし）
説明員 青葉農林課長
書 記 川上主任、岩崎事務局長

○山本委員長 これより会議を再開します。先日の農林課の審査において、株式会社オロチへの原木支援経営状態についての報告をお願いしておりましたので、農林課長より説明を求めます。まず、本日配布の資料について説明を求めます。青葉課長。

○青葉農林課長 本日提出させていただきました資料の中で、先般平成27年12月11日に行われました、株主総会の資料を提出させていただいております。それをご覧をいただきたいと思いますが、事業報告ということで、事業報告第10期ということでご説明がありまして、その内容についてはご覧をいただきたいと思いますが、オロチ自体の経営を取り巻く現状の部分がございまして、概要のところでございますけれども、会社設立から10年、本格稼働から7年目ということでございまして、経営改善アクションプランを作成をいたしましてから3年目という年でございます。我が国の経済状況はということで書いてありまして、消費税が増税をされたということからの落ち込み、企業業績がその落ち込みから改善を若干してきたと。それから個人消費も緩やかながら持ち直しの傾向が見られたというような報告がございました。その中でやはり住宅事情と言いますのは、消費税に関係するところもよくあるということと、それから住宅着工戸数がやはり少なくなっておるということはありません。それに加えて、2015年度の上期といいますのは27年の9月以降、10月以降ということになりますけれども、若干住宅の着工戸数が増加傾向にあるというご説明がありました。その中でオロチとしては、経営改善アクションプランに基づきまして、LVLの製品歩留まりの向上、それから合板用単盤の生産販売というところを力を入れて推進をしたということでございます。それからオロチにつきましては、昨年第2工場を建設してですね、建物と生産機械への投資を実施をされております。実際のLVLの生産販売と

いう部分でございますけれども、やはり住宅建設の低迷の影響を大きく受けたということもあって、前期と比べましてLVLの生産販売が前年比25%の減少になっておるということでございますけれども、単板生産、合板用単板というものの生産につきましては、前期に比べて2.2倍の生産販売がされたということでございます。それと、原木の総使用量というところでございますけれども、大体同量、前期同様の3万立米程度の使用量となったということがご報告されました。次のページになりますが、若干原木価格の高騰という傾向があったということがありまして、計画に対して約1,000円の上昇ということでございます。日南町から原木価格の安定対策事業の助成金を受け、材料価格を削減することができましたというぐあいを書いていただいております。こういうような状況の中で、売上高は前年比4.5%減の9億1,000万円、営業利益1,100万円、当期純利益450万円の黒字決算ということでございます。8期9期に続き、3年連続の黒字決算になりましたという事でございます。今後対処すべき課題ということで書いていただいておりますが、求人活動を恒常的にやっているんだけど、なかなか従業員の確保増員ができない。これが急務だということでございます。以降、主な部分について前年対比というような形で記入してありますのでご覧をいただきたいと思っております。それと貸借対照表、それから損益計算書が添付してございますのでご覧をいただければと思っております。最終的な損益計算書によりますと先程も申し上げましたが、当期は黒字という経営内容でございます。それから製造原価報告書も添付をされておりますので、製造段階における費用という事でご覧をいただければと思っております。以上が株式会社オロチ第10期の事業報告を並びに経営状況のご報告に変えさせていただきます。と思っております。

○山本委員長　　ただいまの説明につきまして、質疑意見ありますでしょうか。坪倉委員。

○坪倉委員　　予測貸借対照表と昨年度の決算のところなんですけれども、負債総額は大きく変わっておりませんが、その流動負債と長期借入金で数字が逆転しておるぐらい大きく違っております。この辺は経理上のことで多分5億5,000万あたりの位置付けなのかなと思っておりますけれども。そこの説明ができればお願いをしたいと思います。それよりも利益剰余金、それから純資産が計画に比べると7,000万から8,000万赤字に傾いておるとい、赤字といつかマイナスが大きくなっておるといことなんですけれども、その辺が再生計画アクションプログラムに対して、そういう状況なんですけ

ども、再生会議あたりでどういう議論になっておるんでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 長期短期の関係でございますけれども、若干ちょっと数字について確認をしないといけないかなと思いますが、ちょっと不明なところがございますので、その他次の質問についてお話をさせていただきますと、再生計画自体は今期が再生計画3年目になります。この3年目の再生計画を立てて実行するわけですが、その前段にバンクミーティングという会議がございます。これは鳥取県の再生支援協議会も同席していただいて、それから債権者の方も同席をして、計画の見直しをしたり現状の報告をしたりをする会議でございます。今期も27年12月10日に実施をされて、それには出席をして状況等を聞いたところでございますが、再生協議会の方の見解としては3年間において、概ね計画通りに推移をしているというお話をいただきました。3年間をモニタリング期間という具合に申しまして、再生協が経営について指導する期間というのがありまして、根拠をもって一応再生協議会のモニタリングを終了したということになります。その段階で大きく経営に対して障害といえますか、大きな指導もなく、このままやればというようなことでお話を伺いましたので、その点についてはご報告をさせていただきます。

○山本委員長 その他ございますでしょうか。大西委員。

○大西委員 私もこの損益計画と予測貸借対照表と議員になってはじめてなんで、こういう資料、オロチから出たんですけれども、こちらの方の総会資料見ました。本当に経営の中で何が一番ポイントなのかという事で、数字の羅列をされとるので、見えないところが結構あるわけですね。それで、私は今貸借対照表と損益計算の2015年の実績で左右確認しましたけれども、こういう最後を見ておられますか。当然見ておられると思いますけれども、大きなところいろんなところが計画以上に経費がかかっているところもありますし、それから決算書の方のこれは質問ですけれども、特別利益のところのページにあるんですけど、資産助成補助金1億5,600万とありますが、これはなんでしょうか。1億5,600万、特別利益というのは。教えてください。何ページというんでしょうか。ページないんですけれども、貸借対照表の2、3、4ですかね。損益計画の3ページ4ページのところの6ですね。6番のところ特別利益になってます。これが1億5,600万これはどういうことなんでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 資料が出ておりますけれども、この損益計画及び予測貸借対照表をにつきましては、平成25年1月18日に資料として提出をしたものでございます。当時のものでございますから、これをすべての比較対象にさせていただくとなかなか難しいかなと思っております。それと今期におきます特別利益につきましては、建物と機械を入れております。この建物機械につきましては、国の補助事業であります緑プロの事業を使わせていただいたものですから、そこに計上されているものは主に国からの補助金と、国とそれから町が若干上乘せをいたしましたので、国と町の補助金という具合にご理解をいただきたいと思えます。

○山本委員長 その他ありますか。久代副委員長。

○久代副委員長 その売上は当初の再生計画の時は2015年が8億7,500万でその売上げの中身が結局L V Lの売上は約2割減ったけれども、単板ですね、単板の製造と販売がかなり伸びてます。全体としては、売上はある程度計画通りであるけれども、実際の純利益には当初の計画でいうと、当期の純利益が1億1,400万円くらい純利益が出るという計画を立てていられるわけです。つまり売上はある程度目標達成しつつあるけれども、純利益ということに関していえば、その点収益率が計画通りに行っていないのではないかという点について、お聞きしておきたいなというふうに思います。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 経営は前年度実績を見ながら、次年度の計画等を立てて参りますので、この25年当時のものとですねやはり現状比較というよりは、決算を見て議論をしていかなくちゃいけないなというぐあいに思っております。決算時に置いて黒字が出ておるといことになりますと、売上げがある程度総経費に追いついてきておるといことありまして、これを売上と支出をバランスよくとって利益の幅を広げていく必要がございます。この利益幅につきましては、様々な部分で利益を得るための手段というものもありまして、先般オロチの方から聞いておりますのは、やはり歩留り率の向上とそれから単板あたりもですね、要するに需要のある商品を作っていくという流れがございますので、そういうような現在経営方針でやっていらっしゃるという事ですので、どういういうんでしょうか、経営計画、再生計画自体を10年のスパンでとらまえておりまして、現状的に利益を出しながら経営改善に向かっているという具合に考えておりますので、そのあたりはどういうんでしょうか、利益が出る形になりつつあるということでございます。

○山本委員長　　その他ございますか。古都委員。

○古都委員　　先程の課長の説明の中で、説明と言いますか答弁の中で、この表は当時のものだからという発言があったわけですけど、これの変わったものが存在しているわけですか。

○山本委員長　　青葉課長。

○青葉農林課長　　経営計画は毎年見直しをしてやられているということでございますので、当然状況に合わせて収入項目、支出項目とも変更されて今おられます。

○山本委員長　　古都委員。

○古都委員　　最新のものは、課長手元に持っておられるわけですか。

○山本委員長　　青葉課長。

○青葉農林課長　　最新のものは見せていただいておりますので、役場の方で把握をしております。

○山本委員長　　その他ございますか。坪倉委員。

○坪倉委員　　売上とか経費とか、その時々を経済情勢も大きく影響するんですけど、会社としてトータルとして、負債をいくら減らせているのか。その上でキャッシュフローがどれだけあるのか。次の再生産に向けてのキャッシュフローがどれだけあるのかというところが一番会社経営の中で重要だと思っておりますけれども、その固定負債がこの試算表と決算書とでは、それこそ数字が大きく変わっておって比較にならないのですけれども、実際に金融機関への返済は計画通りできておるのかどうなのかということと、キャッシュフローが十分あるのかということについても、この表で読みきれませんので説明をお願いします。

○山本委員長　　青葉課長。

○青葉農林課長　　会社の経営にも影響することでございますし、ただ申し上げられるのはですね再生計画で計画を立てた負債の償還と申しますか、償還金につきましては計画通り償還されております。それからキャッシュフロー等につきましては、よくわからんという表現はますますいけないんですけれども、私共としては会社の本当に経営に関わることだという具合に認識しておりますので、発言は控えたいと思っております。

○山本委員長　　その他ございますか。恵比奈委員。

○恵比奈委員　　先程他の委員からちょっと声が出かけましたけれども、事業計画で

すね、毎年度決算に基づいて見直されているなら、補助金を出している日南町、私達議会としても、その内容を是非知らせていただきたいと思いますので、資料として毎年度経営計画を立てられたものを見せていただきたいというふうに思いますがいかがでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 経営計画につきましては、私共もちろんと説明は受けますけれども、これはオロチが建てられるものでございますから、私共にそのまま求めるというのはいかなものかと思えます。

○山本委員長 その他ございますでしょうか。古都委員。

○古都委員 課長そういうふうに言われますけれどね、この今日のオロチが計画通りこういう措置を受けて、黒字が続いておるとい話の元はですね、やはりこの計画を議会にも聞かせてもらって、こういうことならという事で補助金も出したわけですから。一旦通ってしまえば民間のことだとい話にはならんのではないかと。それならば民間のされるところに、この段階です、12年ですか、ベースが12年の9期の段階で資料を作られた時にですね、そのことがなければ一旦金はもらうけれども、補助金等ももらうけれども、あとは何も言いませんとい話にはならんではないかと思えますがどうですか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 経営状況につきましては、当然株主総会の資料を提示をさせていただいておりますし、それから経営の内容等につきましては、担当課とも念密に打ち合わせはさせていただいております。ただその再生計画につきましては、非常にシビアなものと言いますか、それはオロチさんがやはり経営の中でお考えになって、なるべく早く経営再建といいますか、再生計画を達成するという動きを我々は支援をするという立場におりますので、当然その報告につきましては求めていきますけれども、それは経営の中の報告ということでとらえていきたいということを思っております。それとやはりオロチの方からもよく聞きますのは、どうしても従業員がいないと。やはり地域雇用をしなくちゃいけない我々としても、是非とも生産が安定するだけの雇用の確保を今一番したいとおっしゃっています。その辺に町としては今支援をしなくちゃいけないじゃないかな、特に地方創生、地域産業振興、それから雇用の創出というようなこともテーマにして私共動いております。その関係も合わせながら、やはり町

内の企業、企業を育てていくというところで一番課題がやはり人の問題だということ
を伺っておりますので、当面はそのやはり人の問題を解決をすべきというぐあいに考
えております。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 ここに流動負債と固定負債があるわけですし、今同僚議員がおっしゃ
られましたけど、トータルが10億ということでそれはこの計画に沿ったことになって
おりますけど、この中の内訳で流動負債と固定負債というのが逆転しとるわけなんで
すよね。これはどういう項目でこれが逆転した数字がここに出とるかということをし
ゃっとお示しをお願いします。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 今ご覧をいただいております資料は、決算書ですか。

○近藤委員 決算書の2番。

○山本委員長 ②の裏ですか。

○近藤委員 ②の裏の流動負債と固定負債、1番2番、要するに負債の部分。流動負
債が7億2,900万ということで、固定負債が2億8,800万ということで。この計画表に
よりますと、流動負債が1億2,000万で固定負債が8億7,900万ということで、トータ
ルは10億とこの決算書が10億1,000万だけど、そんなにかわらんわけですけれども。
その内容が何をどちらにやって、どの項目が前後したかいうのをお示し願いたいと思
います。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 経理の方法として、長期なのか流動負債なのかということなんだ
と思いますけど、流動負債の方に振り替えをして、経理をされておるということでは
ないかというぐあいに思っております。

○山本委員長 中身とすれば5億5,000万の支払い手形というところが大きいもの
だと思いますが。どっちに振り替えるかという、経理上の問題だと思いますけどね。
総額は変わらないはずですけど。久代副委員長。

○久代副委員長 ちょうど関連でこのページで言えば、そこはもう振り替えられた
支払い手形は。買え掛け金の1億5,200万ありますよね。買え掛け金。これは当初か
ら言われておった森林組合からの材料仕入れた時のものが残っているということの解
釈でよろしいでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 買え掛けでございますので、すべてとは言えないと思いますが、主なものは材料費ではないかと思えます。

○山本委員長 久代副委員長。

○久代副委員長 それで色々同僚議員からもありましたけれども、この再生計画は3年で終わったということで、現にこれから5年間も自立計画によって3,400万ですね。向こう5年間、原木の仕入れ代として助成すると、合計1億7,000万。過去これまでのものを含めると、2億をゆうに越える金額になっていくというふうに思うんです。やっぱり一点、町としても議会としても、関与していかなければならないことは、やっぱり公金を原木の仕入れに対して支払うと。しかも筆頭の株主であるということから見れば、より透明性のある町民に我々が説明責任ができる範囲で、計画金融機関との話し合いもあっておくことも含めて、経営をよりオープンにしていくことが、オロチの将来にも、私は必ずしもシビアな面があると言われるけども、返って公開することによって信頼も得られる。企業の信頼も得られるじゃないかというふうに思えますので、先程来あるように公開できる範囲については、公開をしていくことが当然ではないかというふうに思いますが、再度確認をしたいと思います。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 おっしゃることは、どういうんでしょうか、よくわかる場所もありますけれども、企業も生き物でございます。どうしても一生懸命やっておるところで、それに伴う経営状況と言いますのは、ある程度最終的な決算の状況を公表するというのが今の会社の仕組みでございますから、その段階に置いてやはり説明をするということでもいいかなと思っておりますし、それで補助事業をやっておる、要するに補助をしておる町としては、状況については時折々に担当の方からも状況を聞きます。今回もオロチの第10期の決算が済んでから、何回か状況を訪ねておりますけれども、10月以降生産の方もできるようになったと。四半期においては計画に対比してもですね、10期の実績に比べても、今までになくいい環境で進めておるという状況を聞いております。これはLVLを製造するに当たりまして、LVLの製造量も10期と比較をすればですね、月次と言います、月に生産できる量、月次生産量につきましてもほぼ計画設定しておる数字に近づいておるし、我々も一生懸命やっておるというぐあいに聞いております。販売もほぼ順調に計画通りの販売を今進めておるというぐあいに

聞いておりますので、そのあたりは経営というものは注視はしなくちゃいけませんけれども、主体的にやっていただく部分というのがありますから。それについては要するには注視しながら主体的にやっていただくということで、ご理解をいただきたいと思えます。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 そこがちょっと今私も先程質問したのに、課長からは私の質問の趣旨に答えた答弁でなかったと思っておって、よくなったら口を出すなというふうにししか聞こえないわけで、この再生計画を立てる段階でも、経営のことについては報告ができにくいという話であったのかどうか。2,667株の株主が最初この段階で会社のことというなら株主がおるわけですから、株主がどう動いたのか。480名からおられるということですから、私は当時そのことも言ったわけで。当時とすれば一株も持たない人が役員に入っておったりとか、色々あったわけですがけれども。動き出したらなかなか公表できんよという事は若干おかしいではないか。例えばですね、資料配布はしないけども、回収してでも状況を見せるとかいろんな手法はあると思うんですよ。今の課長のスタンスは、そこまで口を出すなというふうにししか聞こえないわけですがけれども。それはやっぱりやることを全部会社だからというものの言い方でいうなら、当初も会社だったわけですから。会社としての動きがどれだけできたのか。私は当時も疑問に思っていましたけど、黒字が出したら会社のことだけそこまでは公表できんよという言い方はおかしいじゃないかと。ある程度安定するまではまだ何が起こるかを分らんわけですから。そういう要望希望は一切ないとそういうことでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 私の説明の仕方がおかしいのかもしれませんが、会社のことについて口を出すなと言って私は説明をしとるわけではございません。オロチにつきましては、町も一緒になって作った会社ですし、地方創生のやはり日南町の地域資源を生ずというスタンスから言えば、当然大きくなって欲しい会社でございます。豊富な木材と森林資源があると言われながら、実際にオロチが創業していただくことで3万立米以上のものを、安定的に山から切り出すこともできます。それを利用することもできます。それによって地域雇用も生まれております。我々はそのところはしっかりと構えながら、経営というものも大事だという観点から、今の動きを我々は状況を把握をさせていただきながら、それを見て支援をしていきたいというわけがございます。

いますので、会社が口を出すなどか、そういう意味ではございませんので。ただし、経営というものはどういうんでしょうか、資料としてご提出できないものもあるということをご理解をいただきたいと思います。

○山本委員長 恵比奈委員。

○恵比奈委員 課長、私たちは本当に大事なオロチですから、しっかりと支援するところは支援してでも、大きく育てていただきたい。雇用が生まれるように頑張ってもらいたいという想いの元に、原木支援も議会として認めてやってきているわけです。そういう時に決算書は見せていただきましたけれども、次の期に向かって2年先3年先4年先5年先に向かって、どこまで原木支援がどの程度必要なものなのかどうかという判断を、私達はしたいというふうに思っているわけなんです。そのために資料を見せてくださいと言いました。それは細部に渡っては言う事もできませんし、お見せすることもできません。それは私が会社と常に連絡を取り合ってチェックしてちゃんとしておりますから、私が言うことはすべて間違いありませんから議会の皆さんどうぞ安心して議決してください。というふうに言われているように私は受け取れるんです。課長が適切な判断をしておられないというわけではないんですよ。ないですけれども、私たちも同じ様に真剣に一つ一つ判断していきたいと思うから、できれば透明性をもって、教えていただきたいというふうに思っているわけです。ひょっとしたら原木の支援の価格もこれを見たら、そりゃ立米あたり1,000円じゃとても会社がやれなという結論になるかもしれませんよ。そのことを思っているわけなんですけども。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 おっしゃることは本当によくわかりましてですね、それと私がここで説明したことがすべてであって、というところの部分は削除していただきたいと思いますが、一緒になって支援していただけるという事は本当に有難いことだと思っております。ただ、数値自体につきましては、私の一存ではどうにもならないものもありますので、その数値とか状況とかはやはり担当課に報告をしていただけないという事をまずご理解をいただきたいと思います。

○山本委員長 その他ございますか。ないようでしたらこの件についての質疑はこれにて終了します。青葉農林課長、ありがとうございました。

○青葉農林課長 雇用等本当に真剣に悩んでおりますので、是非とも皆様方の方で、雇用等のお話がありましたら、是非紹介してやっていただければというふうに思っ

ります。

○山本委員長　　ありがとうございました。この件につきまして、特に意見を付したいということがございますか。坪倉委員。

○坪倉委員　　意見を付すことはないんですけども、いわゆる過疎計画で5年先まで再生計画から将来に向けての原木補償、補填がありますけど、その辺が妥当かどうか議論をすべきかなと思っています。この10期の決算書を見させてもらって、5億5,000万の支払い手当の扱いが非常に微妙なんですけども、これが言葉にあるように支払いが当面ないとすれば、純資産なり形状剰余金がプラスになるわけですよ。その上でキャッシュフローが返済もできて、キャッシュフローが回っているということになると、それほど原木支援も必要ではないのかなと。自力で回転できるのかなあというイメージもあります。

○山本委員長　　ただいまの過疎計画の中におきまして、5年間支援をするようになっておりますが、そのことが必要かどうかという意見議論が必要だという意見でしたが、いかがでしょうか。いかがいたしますか。久代副委員長。

○久代副委員長　　課長は答えられるだけの範囲で答弁されたと思いますので、直接オロチの経営者もまたいつかの機会に呼んでですね、率直な意見交換をする必要があるんじゃないかというふうに私も思います。さっき同僚議員からあった木材の仕入れ立米1,000円の問題、或いは雇用、なかなか職員が集まらないという課長の話もありました。オロチの方も随時募集しているが集まらないというこの総会資料にも書いてありますけども。やっぱりそういう対策も含めて、町として本当にどういう支援が必要なのかということのを改めて会社の経営者、役員の皆さんを呼んで話し合う機会を設けたらいいんじゃないかなというふうに思います。

○山本委員長　　この委員会においてですか。

○久代副委員長　　それは別にこの予算審査の中では会期的にも無理だと思いますので、別途全員の皆さんで意見を聞く機会を設けたらいいんじゃないかなというふうに思いますがどうでしょうか。

○山本委員長　　今の久代副委員長の意見につきましては、この委員会では難しいと思いますので、議長他ですね、検討していただくように。意見として聞いておいていただきたいと思います。そうしますとその他ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○山本委員長　　そうしますと、本日の会議はこれにて終了し散会とします。明日は、午前中保育園、日南病院、午後は福祉保健課の審査を予定しておりますので、よろしくお願いをいたします。疲れ様でした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成　　年　　月　　日

委員長

副委員長